原発事故から15年

私たちはなぜ避難したのか　Part2

補足資料

京都・市民放射能測定所

作成：事務局長　佐藤和利

2012年5月19日　京都･市民放射能測定所　開設

京都測定所の誕生は、避難者の方の声から

2011年に福島の測定所の講演会を京都で開催
その場で測った鶏肉が汚染されていた。

京都に避難されてきた方の声
「せっかく避難したのに、汚染食品が流通したら、避難した意味がなくなる。」

自分たちを防護する『ツール』としての測定所を開設。
市民のカンパで測定器（160万円）を購入。

避難者の方が、スタッフとして、支援者として、測定所を支え続けてくれています。

測定データから見えること

原発事故　避難の選択　家族

そして未来のために

原発事故直後
放射能汚染の農作物への影響
を示すもの

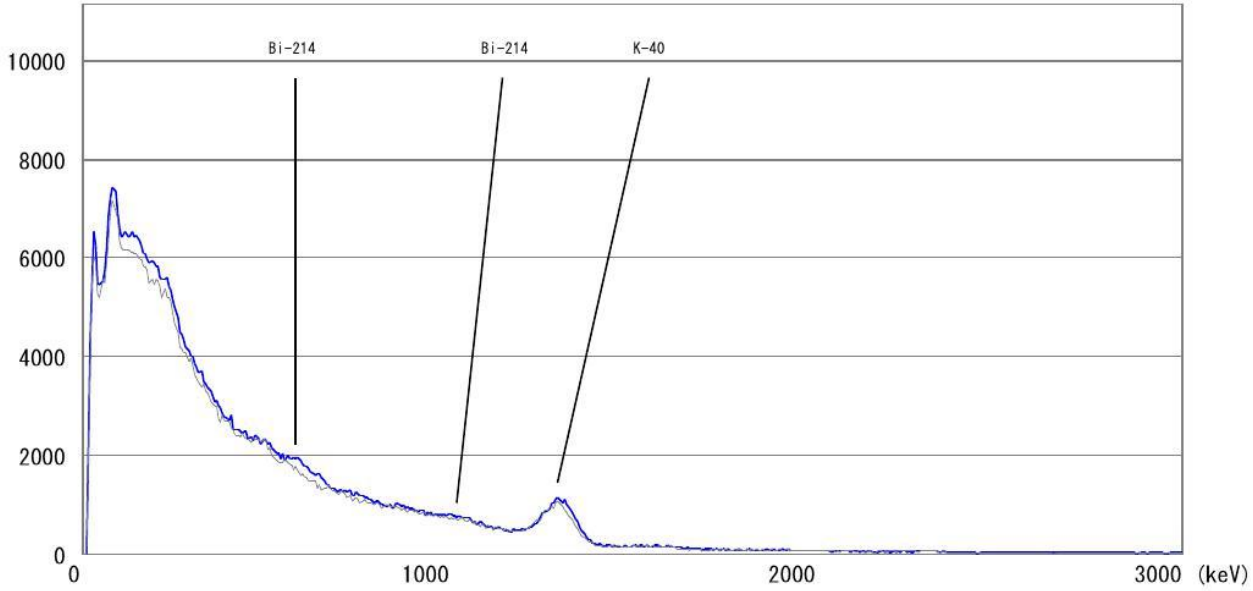
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 09:36:24

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	島田真理子
測定番号	T130418-05	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2013年04月18日 15時51分59秒	測定時間	57000 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	1010 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	白米 福島県産 24年度産 T130418-01の延長測定		
ｾｼｳﾑ合計	2.13 ± 0.70 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	1.39 Bq/kg	±0.55 Bq/kg	34.0%	0.75 Bq/kg	
検出	Cs-134	0.74 Bq/kg	±0.43 Bq/kg	58.0%	0.69 Bq/kg	
検出	K-40	24.1 Bq/kg	±7.2 Bq/kg	22.2%	8.60 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



福島県は農業王国
果物畑が広がり、
稲穂が実り、
山野の豊かな恵みがあります。

即売所で、とれたての梨を食べたことがあります。格別でした。

今は検出事例は本当に少なくなりましたが、
原発事故後はこの白米のように
放射性セシウムの検出事例が
多くありました。

毎日食べる主食だからこそ、汚染があってはなりません。

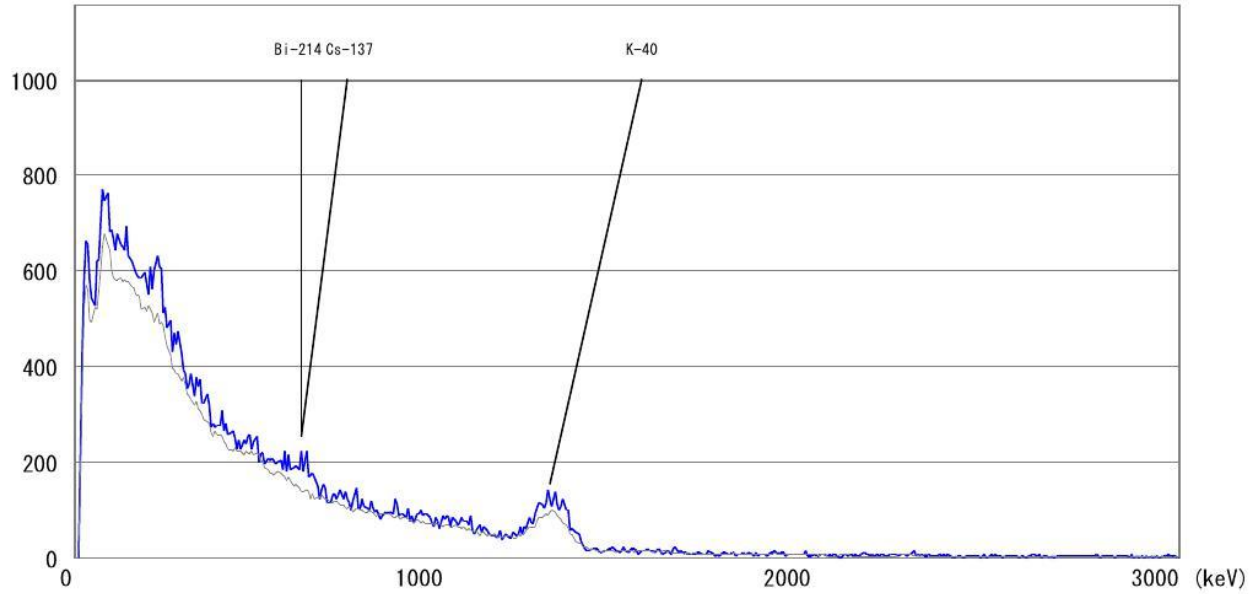
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 09:39:10

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	奥森 祥陽
測定番号	T130914-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2013年09月14日 15時36分47秒	測定時間	5400 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	964 g
分析核種	I+2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	福島市産男爵いも__25年7月収穫__加工(ゆで)		
ｾｼｳﾑ合計	4.48 ± 1.59 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
下限以下	I-131	-	-	-	1.18 Bq/kg	
検出	Cs-137	4.48 Bq/kg	±1.59 Bq/kg	29.3%	1.96 Bq/kg	M
下限以下	Cs-134	-	-	-	1.80 Bq/kg	
検出	K-40	80.9 Bq/kg	±22.3 Bq/kg	18.7%	22.6 Bq/kg	P

［判定条件］ 検出(検出下限値以上)
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



原発事故によって土壌が広く汚染されました。

事故直後に農作業を止めなかったため、畑を耕してしまい、表面の汚染を深く浸透させてしまったと言われています。

後に土壌改良が進められましたが、完全に取り除くことはできません。

測定することで、その影響を様々見ることができます。
この「男爵いも」もその1例と考えます。

土壌の
放射能汚染の実態

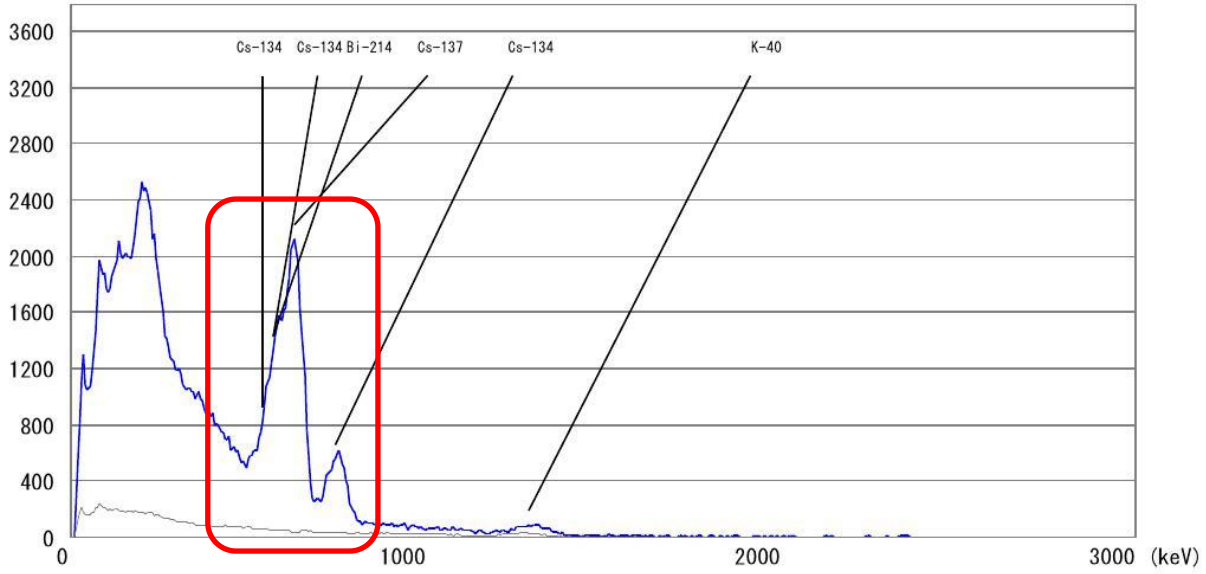
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 09:56:12

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	T140621-02	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2014年06月21日 15時47分39秒	測定時間	1800 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	941 g
分析核種	I+2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	福島市の住宅の土(除染なし)		
ｾｼｳﾑ合計	731 ± 112 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	I-131	33.2 Bq/kg	±8.6 Bq/kg	16.0%	2.18 Bq/kg	
検出	Cs-137	520 Bq/kg	±104 Bq/kg	2.1%	3.64 Bq/kg	P
検出	Cs-134	211 Bq/kg	±42 Bq/kg	2.7%	3.33 Bq/kg	M
検出	K-40	355 Bq/kg	±85 Bq/kg	12.2%	41.4 Bq/kg	P

[判定条件] 検出(検出下限値以上)
[ﾋﾟｰｸ検出] P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 [ﾋﾟｰｸ検出条件] ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2014年6月
福島市の住宅の土の汚染状況です。(除染前のもの)

放射性セシウム合算で
731ベクレル／kg
の値を示しています。

セシウム134は半減期2年なので、今はかなり減っています。
この2014年6月当時は半減した直後なので、まだまだセシウム134の数値がはっきりと現れています。
セシウム137単独では
520ベクレル／kgです。

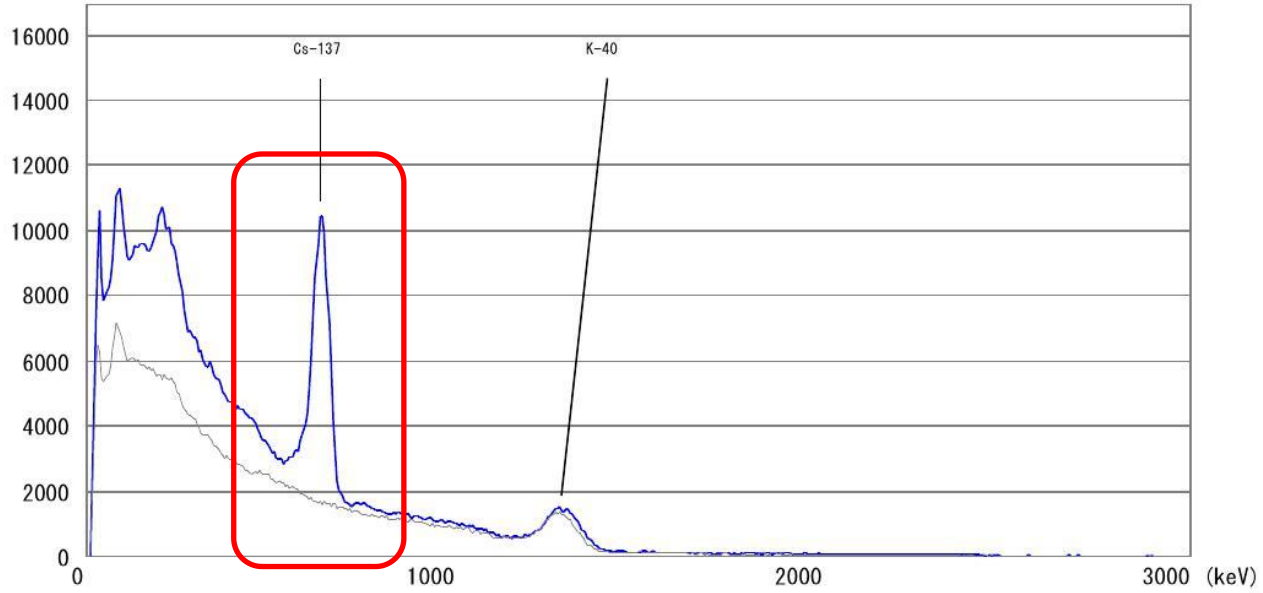
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2023/11/05 13:26:42

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	t230502-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2023年05月02日 22時28分45秒	測定時間	63000 秒
測定容器	0.1l	試料重量	126 g
分析核種	2CsK	信頼水準	0.95
試料情報	庭の土(福島市)		
ｾｼｳﾑ合計	377 ± 72.1 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	359 Bq/kg	±72 Bq/kg	1.1%	4.91 Bq/kg	P
検出	Cs-134	17.6 Bq/kg	±4.4 Bq/kg	14.4%	3.96 Bq/kg	
検出	K-40	322 Bq/kg	±76 Bq/kg	11.9%	60.6 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2023年5月
福島市の住宅の土の汚染状況です。（前回から約9年後）

放射性セシウム合算で
377ベクレル／kg
の値を示しています。

事故から12年たっているので
セシウム134の姿が見えません。

でもセシウム137単独では
359ベクレル／kg
（9年前は520ベクレル／kg）
除染の効果は限定的と思わざるをえません。

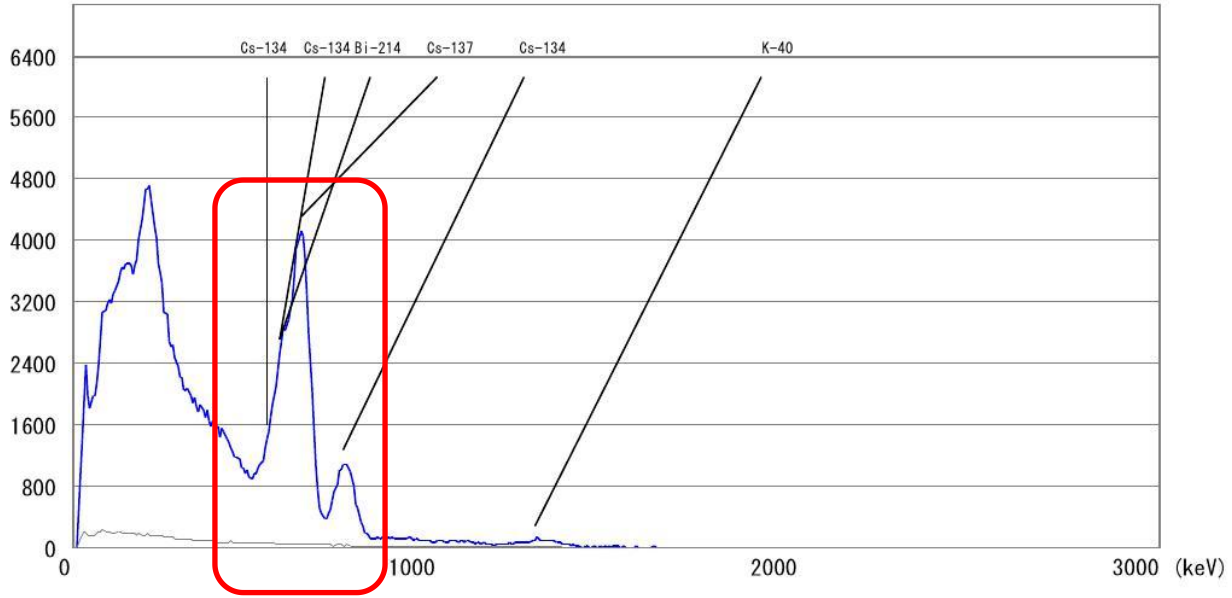
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 10:05:56

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	杉谷伸夫
測定番号	T140626-04	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2014年06月25日 12時49分39秒	測定時間	1800 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	1040 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	福島市の畑の土(ゼオライトあり)		
ｾｼｳﾑ合計	1.31 ± 0.20 kBq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	946 Bq/kg	±189 Bq/kg	1.4%	3.28 Bq/kg	P
検出	Cs-134	359 Bq/kg	±72 Bq/kg	1.8%	3.01 Bq/kg	M
検出	K-40	320 Bq/kg	±79 Bq/kg	13.9%	37.3 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2014年6月
福島市の畑の土の汚染状況です。
（放射性物質を吸着させるためゼオライトを混ぜたもの）

放射性セシウム合算で
1310ベクレル／kg
の値を示しています。

これもセシウム134の姿がはっきりと見えています。
セシウム137単独では
946ベクレル／kgです。
かなり高い値を示しています。

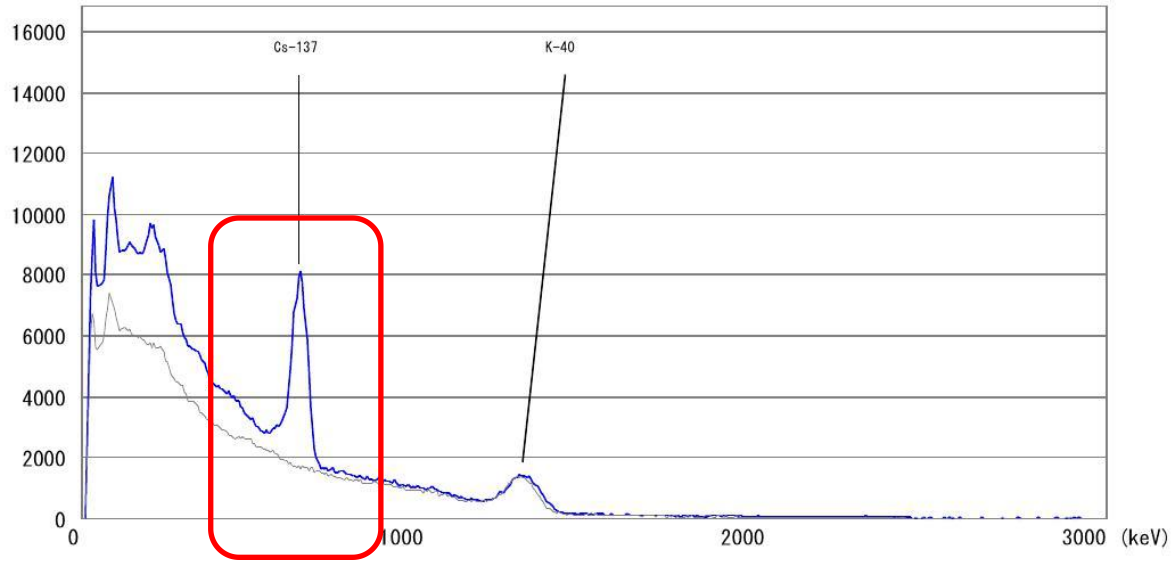
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2023/11/05 13:23:26

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	楠本　泰一郎
測定番号	T230514-02	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2023年05月14日 13時59分41秒	測定時間	65000 秒
測定容器	0.1l	試料重量	117 g
分析核種	2CsK	信頼水準	0.95
試料情報	福島市の畑の土		
ｾｼｳﾑ合計	288 ± 55.1 Bq/kg		

判　定	核　種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	273 Bq/kg	±55 Bq/kg	1.5%	5.23 Bq/kg	P
検出	Cs-134	14.8 Bq/kg	±4.0 Bq/kg	17.9%	4.20 Bq/kg	
検出	K-40	224 Bq/kg	±61 Bq/kg	18.0%	64.6 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出　M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在　［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2023年5月
福島市の畑の土の汚染状況です。
（前回から約9年後）

放射性セシウム合算で
288ベクレル／kg
の値を示しています。

こちらも
事故から12年たっているので
セシウム134の姿が見えません。

セシウム137単独では
273ベクレル／kg
（9年前は946ベクレル／kg）
住宅の土と同等レベルと考えられます。

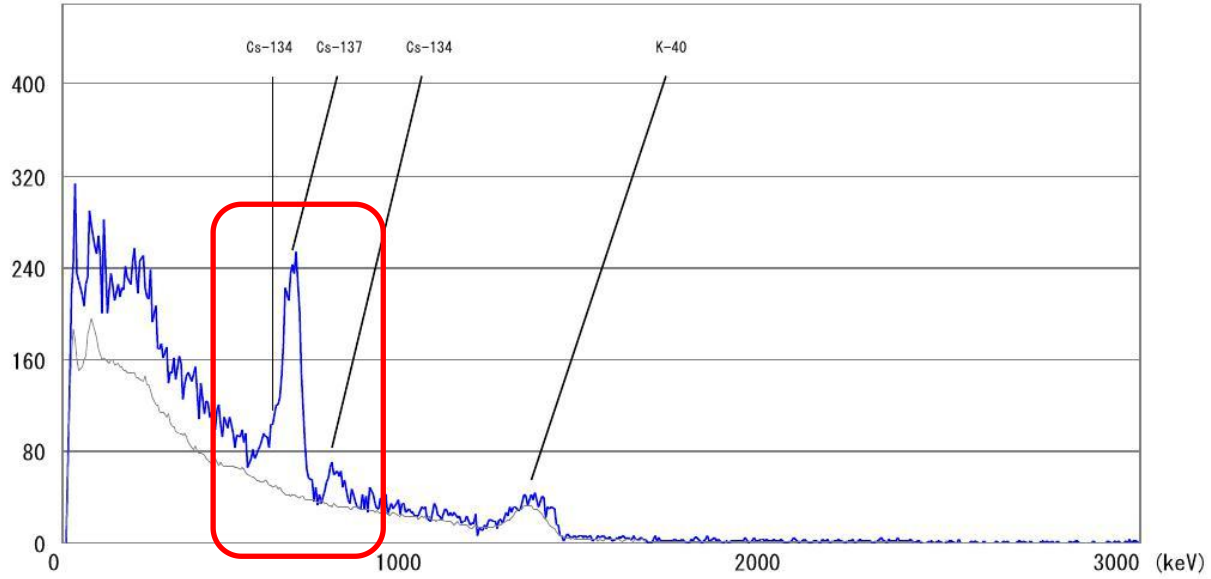
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 10:10:00

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	奥森 祥陽
測定番号	T170806-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2017年08月06日 14時17分03秒	測定時間	1800 秒
測定容器	0.1l	試料重量	26 g
分析核種	2CsK	信頼水準	0.95
試料情報	震災前から保管してあった薪の灰		
ｾｼｳﾑ合計	1.60 ± 0.30 kBq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	1360 Bq/kg	±290 Bq/kg	7.5%	103 Bq/kg	P
検出	Cs-134	238 Bq/kg	±77 Bq/kg	25.5%	84.5 Bq/kg	P
検出	K-40	2750 Bq/kg	±1010 Bq/kg	30.8%	1250 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2017年8月測定

福島県福島市の薪の灰です。

セシウム137が
1360ベクレル/kg
セシウム134が
237ベクレル/kg
と高い数値が出ました。

合算1600ベクレル／kgです。

京都測定所では灰を何度も測定していますが、放射能が濃縮されるので、焼却は最悪の処理方法だと考えます。

気になる測定結果を比べてみると・・・

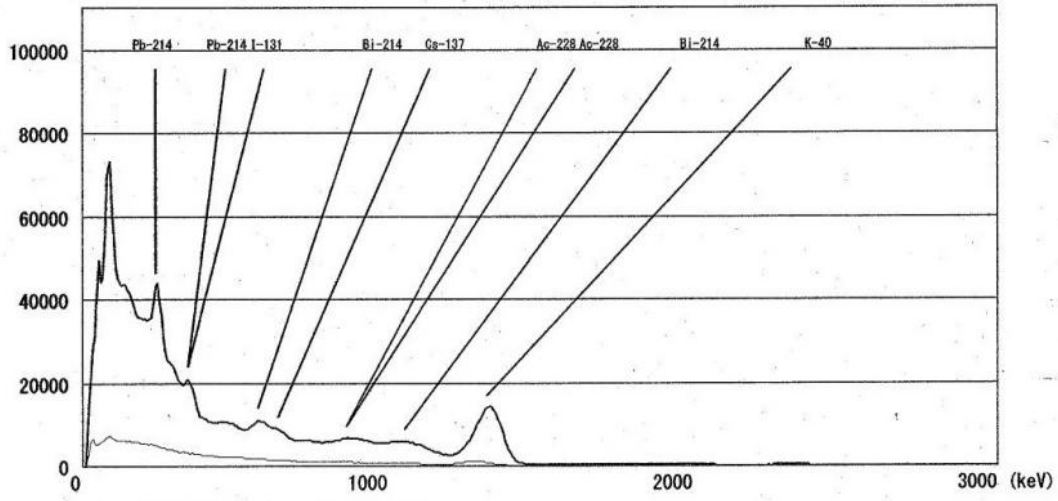
放射能測定結果

印刷日時 : 2018/04/02 19:24:51

測定場所	丹波橋測定室	測定者	佐藤和利
測定番号	T180331-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2018年03月31日 14時55分50秒	測定時間	63000 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	814 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	灰 福井市(311以降の薪)		
ｾｼｳﾑ合計	68.7 ± 10.0 Bq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	25.6 Bq/kg	±5.1 Bq/kg	4.8%	0.89 Bq/kg	P
検出	Cs-134	43.1 Bq/kg	±8.6 Bq/kg	2.5%	0.81 Bq/kg	
検出	K-40	3650 Bq/kg	±730 Bq/kg	<1%	10.3 Bq/kg	P

[判定条件] 検出(検出下限値以上)
[ﾋﾟｰｸ検出] P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 [ﾋﾟｰｸ検出条件] ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2018年3月測定
福井県福井市の薪の灰です。
放射性セシウムは
合算68．7ベクレル／kgです。

この値には、放射性鉛と放射性ビスマスという天然核種の影響による誤検出も含まれていると思われます。

また、セシウム137は、過去の核実験かチェルノブイリ事故の残留が考えられます。
しかし、福島市の灰より、ずっと低い値です。

干し柿の
放射能汚染の追跡調査

福島市　自家製干し柿の各年度の測定結果

測定年	Cs137(Bq/kg)	検出下限値(Bq/kg)	Cs134(Bq/kg)	検出下限値(Bq/kg)
2015年	23.3±5.7	3.45	6.94±2.88	3.23
2016年	28.0±5.63	2.71	6.17±2.32	2.51
2017年	48.0±10.7	4.88	6.75±3.08	3.99
2019年	30.5±7.60	5.72	7.60±3.89	5.24

・福島市から京都に避難された方の実家でつくられた自家製干し柿です。
・除染をしていない柿の木です。
・毎年放射性セシウムが検出されています。
　値は、ほとんど下がっていません。

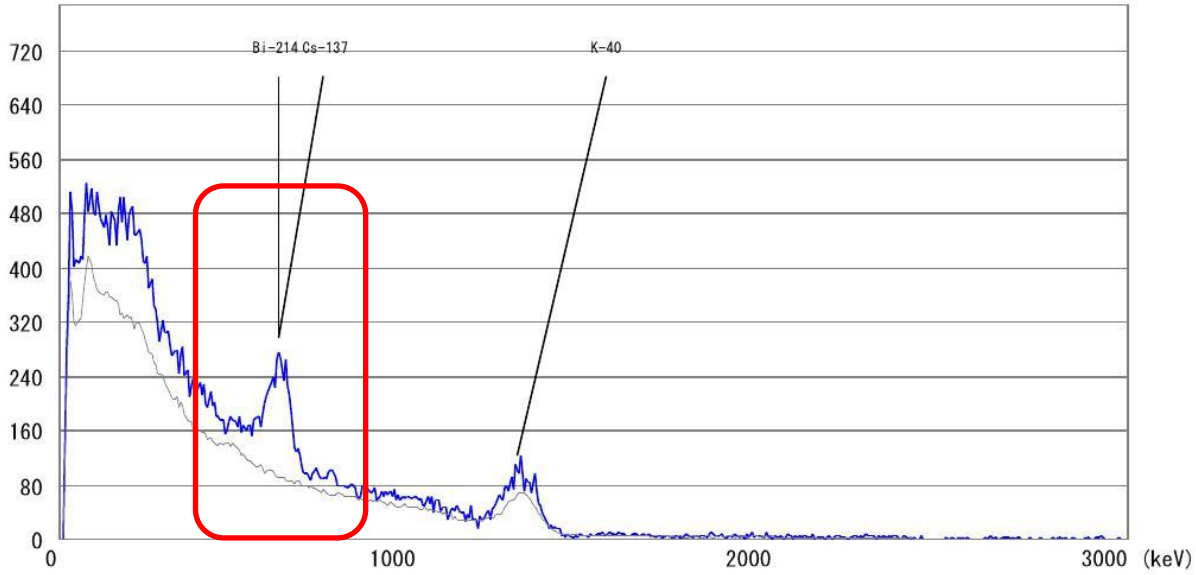
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2026/07/17 09:46:55

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	T170107-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2017年01月07日 11時00分02秒	測定時間	3600 秒
測定容器	Marinelli, 0.5	試料重量	399 g
分析核種	2CsK	信頼水準	0.95
試料情報	干し柿 福島市西部 自家製		
ｾｼｳﾑ合計	54.8 ± 11.1 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	48.0 Bq/kg	±10.7 Bq/kg	8.6%	4.88 Bq/kg	M
検出	Cs-134	6.75 Bq/kg	±3.08 Bq/kg	41.5%	3.99 Bq/kg	
検出	K-40	234 Bq/kg	±60 Bq/kg	15.9%	52.6 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2017年1月測定
福島市の自家製干し柿の測定結果です。

セシウム137が
48．0ベクレル/kg
セシウム134が
6．75ベクレル/kg
と食品としては高い値が出ました。
（134は天然各種の影響含む）

合算54．8ベクレル／kgです。

除染をしていない柿の木のため、影響が残り続けていると考えられます。

現在の
放射能汚染の実態

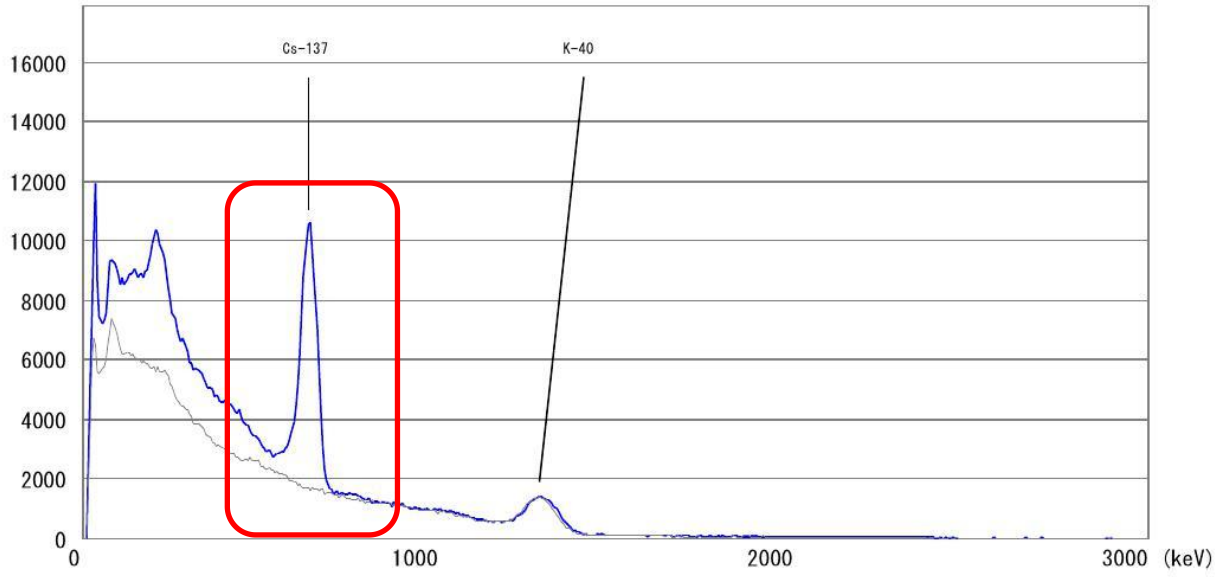
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2023/11/05 13:28:54

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	T230521-01	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2023年05月21日 19時40分47秒	測定時間	65000 秒
測定容器	0.1l	試料重量	81 g
分析核種	2CsK	信頼水準	0.95
試料情報	コシアブラ(川俣町)		
ｾｼｳﾑ合計	565 ± 111 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	555 Bq/kg	±111 Bq/kg	1.1%	7.57 Bq/kg	P
検出	Cs-134	9.59 Bq/kg	±4.21 Bq/kg	39.4%	6.09 Bq/kg	
検出	K-40	186 Bq/kg	±68 Bq/kg	31.0%	93.5 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2023年5月測定
福島県川俣町で採取された山菜「コシアブラ」の測定結果です。

セシウム137が
555ベクレル/kg
セシウム134が
9．59ベクレル/kg
と驚きの高い値が出ました。

合算565ベクレル／kgです。

フリマや通販にご注意！
山菜やキノコが売買されていますが、その中から汚染されたものが見つかっています。

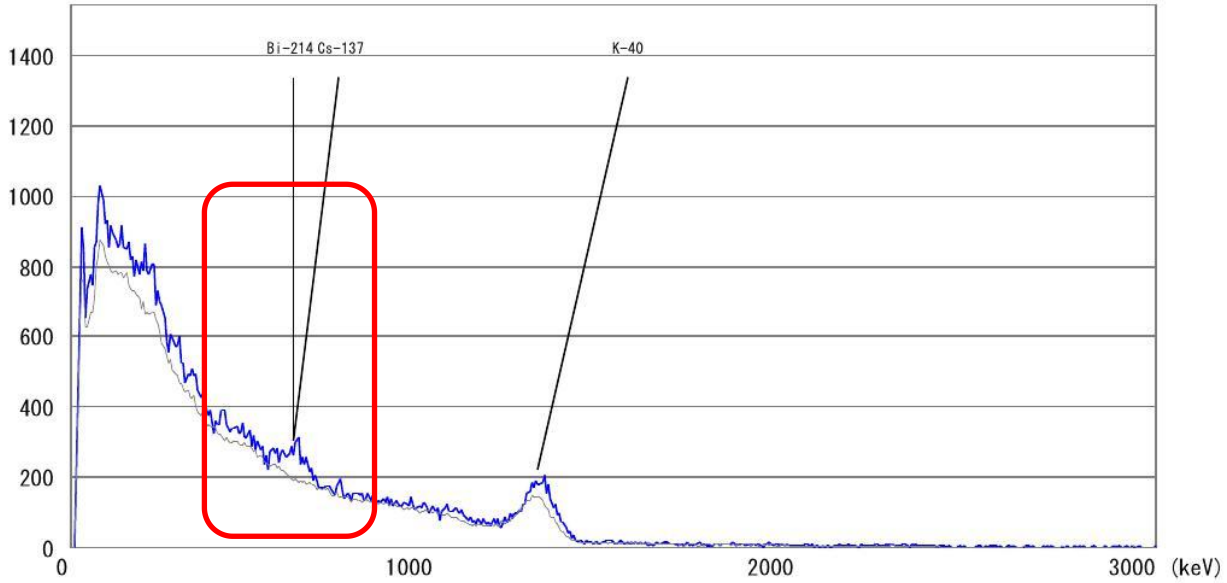
放 射 能 測 定 結 果

印刷日時 ： 2024/06/30 12:31:35

測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	T240630	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2024年06月30日 10時19分10秒	測定時間	7200 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	861 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	梅の実(福島 自家栽培)		
ｾｼｳﾑ合計	6.31 ± 1.83 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
検出	Cs-137	6.31 Bq/kg	±1.83 Bq/kg	20.8%	1.97 Bq/kg	M
下限以下	Cs-134	-	-	-	1.82 Bq/kg	
検出	K-40	99.1 Bq/kg	±25.3 Bq/kg	15.5%	22.9 Bq/kg	P

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



2024年6月測定
福島市　自家栽培の梅の実
の測定結果です。

セシウム137が
6．31ベクレル/kg
セシウム134は数値出ず
でした。

梅の実を毎日1kg食べる人はいないので、この結果をどう見るかは微妙なところです。

測定所としては、確率として、悪影響があるとわかるものは避けていただくことを推奨いたします。